

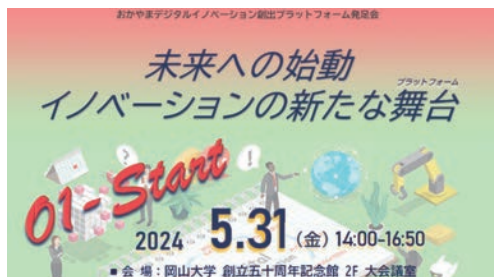
岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 97
2024.5

TOPICS

1

「おかやまデジタルイノベーション創出プラットフォーム (OI-Start)」を設立



本学は、岡山県と連携し、産学官が連携して主に先端デジタル技術を活用したイノベーションを創出し、その実践を通じて創出に貢献する人材を育成することで、県内の企業等の生産性や魅力の向上、若者の県内定着・還流を推進するため、県内企業、大学等の研究者及び学生が組織・分野の枠を超えて共創する「おかやまデジタルイノベーション創出プラットフォーム」(略称: OI-Start)を今年度から発足します。

自動車などのものづくりから、サービス、デザイン、AI/IoT/セキュリティなど多岐にわたる領域を対象として、イノベーションを創出するための場づくり、企業と大学研究者などの多面的な連携、オープンイノベーションの促進、学生の柔軟な発想と行動力を生かしたエコシステムの構築などを通じたプロジェクトの推進等を行います。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13070.html

TOPICS

2

「岡山大学技術統括監理本部」辞令交付式、運営協議会を開催～技術の力で社会変革を！我が国の大学初の取り組みを始動～

本学は今年度から、総合技術部、施設企画部、岡山大学病院医療技術部を統括する技術系組織「岡山大学技術統括監理本部」を設置し、5月15日に辞令交付式及び令和6年度第1回運営協議会を開催しました。

国立大学法人における技術職員は、教育系や研究系、施設系、情報系、医療系などさまざまな系統が存在し、所属している組織も大学や大学病院、研究所、センターなど別々となっている場合も多く見られます。本学では、昨今の大学法人改革や科学技術・イノベーションの振興等において、これらさまざまな系統の技術職員を“国立大学法人”の視点から一元的に取りまとめる組織「技術統括監理本部」を創設しました。同本部は、本学の研究力の向上やイノベーション創出強化、さらには技術職員の「高度化」を強力に推進するため等に設置し、学長を技術総監としたトップマネジメントのもと法人として戦略的に技術職員の運用を進めます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13111.html

Pick up!

クイズ王がやって来た！ 教育学部附属中学校でQuizKnockの伊沢拓司さんが講演



本学教育学部附属中学校は、第3学年を対象としたキャリア学習講演会を5月17日に開催しました。この講演会は、キャリア教育の一環として、職業人の生の声を聞き、学ぶことや働くことの意義・価値を学び、自己を見つめ、自分の将来について考える機会とすることを目的に開催しており、今回は「クイズ王」として知られるQuizKnockの伊沢拓司さんが来校しました。伊沢さんが来ることは生徒には内緒にしてあり、サプライズでの登場時には会場がどよめきと歓声に包まれました。

講演会では、生徒が伊沢さんからの難問に答えたり、反対に生徒が伊沢さんにクイズを出題したりし、クイズの解き方や作るときのコツなど勉強の仕方にも繋がるアドバイスがありました。

また、自身の実体験を交えながら、夢や将来についてもアドバイス。相手のことを想像して1歩先回りをする大切さや、将来どんな働き方をしたいのか、どんなところで生きていきたいのか決める時は、「場所」と「能力」の2つの要素を考えると良いこと等、多くのことを学ぶことができました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13110.html

TOPICS

3

「2024年度岡山大学次世代研究者挑戦的研究プログラム (OU-SPRING) 認定証授与式」を挙

OU-SPRINGは、本学の大学院博士課程在籍者を対象にした支援であり、認定者に対して研究費（年間40万円）・生活費相当の研究奨励費（年間220万円）を支給するとともに、本学独自の「若手研究者育成支援パッケージ」のもと、さまざまな取り組みで研究力向上とキャリアパスの確保などを支援する制度です。2024年度分の認定者は、昨年9月に募集し、書面審査及び面接審査の結果、応募者延べ86人の中から49人を選定しました。

5月10日に認定書授与式を挙。菅誠治教学担当理事・上席副学長が代表者に認定証を授与し「本学では大学院博士後期・博士課程の学生のみなさんを研究者の一員とみなし、挑戦的研究に取り組めるように研究環境を整備しています。今日、認定を受けたみなさんも研究者としてさまざまなことが待ち受けていると思います。時代に対応しながら、『未来のあるべき姿』を常に念頭に置き、我が国の科学技術・イノベーション創出を担う研究活動に日々邁進してください」と次世代を担う若手研究者らを激励しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13105.html



TOPICS

4

全国の常連校へ！陸上競技部がクラウドファンディングに挑戦

本学陸上競技部の中距離・長距離パートは、4月19日からREADYFOR株式会社のサイトにクラウドファンディング「大学史上初の出雲駅伝出場決定！岡山大学陸上競技部駅伝強化プロジェクト」に挑戦しています。

同部は、昨年11月に開催された第67回中四国学生駅伝競走大会において38年ぶりに2位に入賞し、本年10月に開催される学生三大駅伝の一つ「出雲駅伝」への本学史上初の出場を決めました。今回のクラウドファンディングはこの出雲駅伝初出場をきっかけとして、同部が「全国の常連校」になることを目指し、計画・広報・実行までの過程を全て部員のみで作り上げました。

集まった資金は、出雲駅伝当日の移動費や、夏の暑い時期の涼しい高地での合宿等、強化のための費用として使用される予定です。

クラウドファンディング実行責任者の福永伸之介さん（教育学部3年）は「今回の出雲駅伝を初出場だけで終わらせることなく、毎年のように岡山大学の黄色のユニフォームが出雲路や伊勢路を駆け抜けるような強いチームを作り上げることが目標です」と話していました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13114.html

PRESS
RELEASE細胞内で発現しにくいタンパク質の合成を促進する
翻訳因子を発見！

生命を形作るタンパク質は、DNAにコードされた遺伝子配列をもとに細胞内装置リボソームによって合成され、この過程は「翻訳」と呼ばれます。リボソームはどんなタンパク質でも合成可能、と思われがちですが、実際には得手不得手があり、さまざまな配列モチーフの合成に困難が伴っていることが明らかになってきました。

岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域（理）の茶谷悠平准教授らのグループは大腸菌をモデル生物とした解析から、「難翻訳」配列への対抗手段として翻訳伸長因子ABCFタンパク質が働いていることを新規に明らかにしました。大腸菌などに保持される4種のABCFタンパク質は、それぞれが異なるアミノ酸配列に起因する翻訳異常を緩和、予防する役割を持ち、多種多様なタンパク質の合成を可能にしているものと考えられます。

今後ABCFタンパク質の詳細な機能が明らかになることで、合成困難なアミノ酸配列モチーフを含む有用タンパク質の発現効率化などにつながると期待されます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1226.html

